

---

# 家庭、技術・家庭分科会

---

## I 研究のあゆみ

4月18日(木)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月27日(月)	研究計画の検討	【東星中】
6月上旬～7月下旬	研究内容やまとめ方の検討	【個別指導】
8月上旬～9月上旬	レポートやプレゼンテーションの検討	【個別指導】
9月上旬～9月中旬	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【個別指導】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

名古屋市が示す「ナゴヤ学びのコンパス」を授業づくりの土台とし、子どもが生き生きと学びに向かう姿を求めて実践を進めてきた。小学校家庭科、中学校技術・家庭科は生活に密着した教科であり、キャリアにも大きく関わる教科である。また、子ども一人ひとりの生活環境や思い描く未来は様々で、多様な考え方や価値観を認め合う学習が必要となる。9名の実践者は、「一人ひとりに合わせた指導をどのように行うとよいか」や、「様々な考えを伝え合えるようにするにはどうすればよいか」等、「ナゴヤ学びのコンパス」に照らし合わせながら工夫を凝らし、実践をつくり上げた。

意見交流タイムでは、「個別最適な学び・協働的な学び」「みんなが幸せになれる未来」をキーワードに、家庭、技術・家庭の授業づくりについて意見を出し合った。参加した保護者の方からは「授業で作ったものをうれしそうに持ち帰ってきました」や「授業で学んだことが家でも話題に上がり、家族で一緒に考えたりしています」という話を聞くことができた。

## III 今後に残された課題

子どもの生活の土台である「家庭」の在り方は様々であり、これからも更に多様化していくと考えられる。また、生活を支える「技術」はものすごい速さで発展し、予測困難とも言われている。このような状況の中で、今回の実践に多く見られた「他者との違いを知り、多様な価値観を認め合う授業」をステップとし、「新しい発想で未来を創り出す授業」につなげていくことが課題として挙げられる。

さらに、意見交流でも話題に上がった「学校での学びと生活のつながり」はこれからも重視していく必要がある。学校、家庭、地域が協力することで学びの幅が大きく広がり、学び手のわくわく度が高まる。今後は、家庭や地域との更なる連携も課題であると考えている。